

# 北栄町における小学校入学前(就学前)の子どもを取り巻く状況と施設の今後の方向性

資料12 町民課



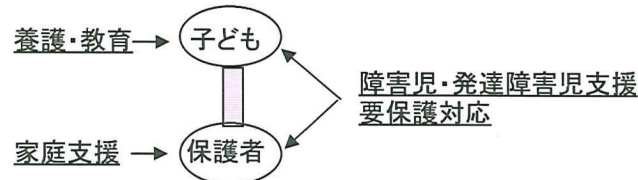
## 施設検討の基本的な考え方

『「子育て」の主人公は家庭 「子育て」の主人公は子ども』  
(北栄町 すこやか スマイル プラン より)  
～「北栄町であれば安心して子どもを産み育てられる」を実現するために、社会情勢が変化中、子どもの育ちと家庭の子育てをどう支援するかを基本に施設の検討を行う～

時代に合った、更なる保育・教育の充実、家庭支援に取り組むために

### (1)施設の機能

- ・養護と教育 ・家庭の支援
- ・障害・発達障害児支援 ・要保護対応



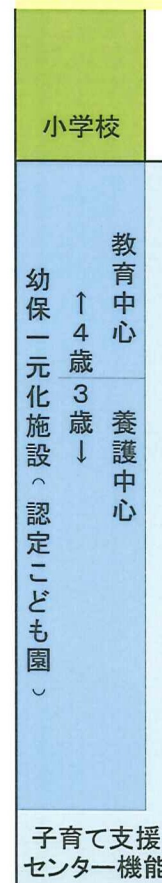
### (2)施設の設置目的

保育所	幼稚園
養護中心	教育中心
健康、安心、安全を主とした保育 対象: 保育に欠ける家庭の子ども	小学校への準備(学びの芽を育む) 対象: 就学前の子ども(3歳以上)

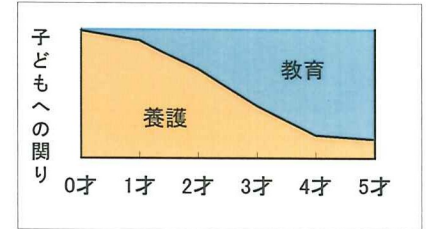
※養護: 子どもの生命の保持及び情緒の安定

※教育: 体験の中から「生活する力」「人と関わる力」「学びの芽」などを育む  
(就学前は遊びを中心とした体験、学びの芽とは学習への意欲、興味、関心などを育むこと)

## 今後の施設のあり方(モデル例)



## (4)町がめざす施設のあり方



就学前施設が行う養護、教育、家庭支援など、求められていることが多様化しているため、幼保一元化施設での保育・教育が必要となっている

## (5)施設のポイント

- ・就学前乳幼児の約80%が、入所する子育て拠点施設(3歳以上では95%以上が入所)
- ・小学校への滑らかな接続は子どもの育ちに非常に重要
- ・子どもの育ちの支援には、4才以上は幼稚園的に行う方が、より一層の効果が期待できる
- ・保護者の負担軽減を考慮
- ・職員体制の整備による養護・教育・家庭支援の充実
- ・健全財政を維持し、費用対効果が発揮できる施設の構築

## (6)望ましい施設数

- ・各地区に基本的に2施設
- ※北条地区: 合併前より5年来の協議経過もあり、現在も幼保一元化について異論等出ていないため施設の具体化について推進(北条みどり保含む)
- ※大栄地区: 認定こども園とし、養護・教育の両機能を持たせる。地域性も考慮する必要があるため、H22年度より保護者・地域と協議開始

## (3)背景と課題

### ①子どもについて

- ・少子化により、1クラスに必要な人数とまらない施設がある(社会性・協調性・自立性への影響など)
- ・成長に必要な憧れ、思いやりなどを育むのに重要な、異年齢の子どもが会う環境が不足(必要な体験の不足など)
- ・生活の多様化により子どもの育ちも多様化、子どもの発達状況の個人差が大きくなっている(生活習慣の未定着など)

### ②子育て家庭・地域について

- ・子育てが困難な家庭の増加(核家族化、共働き、多様な勤務形態など)
- ・子育てがわからない家庭の増加(核家族化、地域における子育て家庭の交流の困難さなど)
- ・地域で子ども同士が触れあい、交流し、体験する場所の不足(少子化、交流の困難さ、テレビ・ゲーム漬けなど)

### ③その他

- ・厳しい財政状況(7施設の建て替え、維持管理費(小規模施設では効率的な運営は困難)など)